

column

「世界共通のバリアフリー」

初めまして、車椅子トラベラーの三代達也と申します。生まれは茨城県で、現在は糸満市に4年住んでいます。2017年に車椅子で9カ月間単独世界一周を経験し、その後は全国の観光地や学校などでバリアフリーやユニバーサルデザインなどの推進を行っております。

さて、皆様は「障害の社会モデル」という言葉をご存じでしょうか？あまり自分には関係なさそうだなあ…と「今」は思いかもしれませんが安心してください。どんな方にも多かれ少なかれ将来自分ごとになります。そこまで悲観的なことを話すつもりはありません。続けます。

「障害」とは大きく二つに分類されます。それは障害の「個人モデル」と「社会モデル」です。車椅子ユーザーの私は階段を登ることができません。それは私の体が事故で手と足が不自由になってしまったて自力では階段昇降が難しいためです。こういった個人の病気や怪我などを理由とした障害を「個人モデル」と呼びます。では車椅子ユーザーは2階に上がることが難しいのか？と言われるとそうではありません。なぜな

らエレベーターがあるから。そう、つまり社会側が車椅子ユーザーや足腰が不自由な方たちのことを思ってバリアフリー化されれば、私が車椅子に乗っていることは障害ではなくなるのです。これが障害の「社会モデル」です。

さて、では今自分が勤められている会社や自宅、通勤ルート等を少しだけ車椅子目線で見てみてください。急勾配な坂、段差はありますか？幅の広いドア、車椅子対応のトイレは？車椅子で乗り降り可能な広い駐車場はありますか？そういった目線で世の中を見ることってなかなかないですよ。

私たちマイノリティである障害者は、世の中の人々が気づかないレベルのバリアに小さなストレスを抱えています。そして外出自体がおっくうになり、引きこもる。車椅子ユーザーは日本国内だけで200万人いると言われています。60人に1人の計算です。周りでそんなに車椅子の方を見ますか？見ないんです。だいたい引きこもっています。これが今の日本の現状、答えです。ただ私がなぜこの世の中を諦めたくない



のか？障害があるからといって、常にストレスを抱え続けるのはおかしい。そう思わせてくれる国に出会ったのです。

それが人生で初めて旅をした場所ハワイです。衝撃を受けました。バスで北の果てから南の果

てまでどこにでも行ける社会。ホテルには必ずバリアフリーの部屋があって、レストランの入り口は必ずスロープか昇降機が付いている。街の人たちは、当たり前

「May I help you?」

とウインクをしながら話しかけてくれる。完全に社会側のバリアフリーが整っていたのです。

ざっくり歴史を紐解いていくと、アメリカは数十年にわたって、障害当事者が国や社会に訴え続けたそうです。

「ただ当たり前前に生活がしたい、仕事がしたい、

ご飯が食べたい」

と言うことを。そして双方が歩み寄り今のストレスフリーなアメリカが出来上がったと言うわけです。

今の日本に必要なのは、この歩み寄りの精神かと思います。障害当事者を別物として捉えずに、一人間として付き合っていくために何をすればいいのか？自分ごととして考える。マニュアルや正確な答えはありません。「対話」が大切

です。ただ、私は沖縄には大いに期待しているので。それはなぜか、この沖縄が日本で一番心の温かい場所だと信じているからです。関東に住んでいる頃、私は頻繁にレストランや居酒屋で入店を断られました。車椅子の私を見て「うち

段差あるから無理です」の一言のみ。対話はゼロでした。沖縄は違いました。車椅子の私が「このお店入れますか？」と聞くと必ずこんな返答が来ます。「車椅子触ったことないからわからんけど、どんなしたらいい？」断らずにまずHOWを聞いてくれる。沖縄に移住してから4年。障害を理由にお店の入店を断られたことは一度もありません。このマインドがとても大事なのです。

タイトルに付けさせていただいた「世界共通のバリアフリー」とは、世界一周中、数十カ国の人々が等しく私の困りごとに耳を傾けて、対話を繰り返し解決してきました。世の中は物理的なバリアに満ち溢れていました。ただその全ては人の力で超えられました。この沖縄には世界共通のバリアフリーがあると信じています。

どうか今日から、身近な景色を改めて見直し車椅子だったら、目が見えなかったら、耳が聞こえなかったらどうするんだろう？と考えてみてください。そして困りごとを抱えていそうな人がいたら、たった一言だけ

「May I help you (何かお手伝いできることはありますか?)」

と話しかけてみてください。勇気がいる一言かもしれませんが、その一歩が社会を良くしてくれるステップになると私は信じています。

プロフィール

みよ たつや
三代 達也 氏

茨城県日立市出身、沖縄県糸満市在住。18歳の頃バイク事故で首の骨を折り頸髄を損傷、両手両足に麻痺が残り車椅子生活に。23歳の時に人生で初めての海外(ハワイ)一人旅を経験。その後約9ヶ月間23カ国42都市以上を回り、世界一周達成。世界一周帰国後に車椅子トラベラーとして世界での旅の話などを全国で講演活動を行いながら、旅行会社と提携し国内外に赴き車椅子でも旅行しやすいツアー造成の監修などを行なっている。

2021年3月に沖縄へ移住し、当地の魅力をSNSで発信しながら【教育×旅】をテーマに小学校～大学に通う学生達への福祉教育にも積極的に関わる。

- ・2019年7月に光文社より「No Rain, No Rainbow 一度死んだ僕の、車いす世界一周」を出版。
- ・2022年～高校一年生向け英語教科書掲載
- ・琉球リハビリテーション学院非常勤講師
- ・HISユニバーサルツーリズムデスクスペシャルサポーター
- ・旅のユニバーサルデザインアドバイザーサポーター 車椅子の日常や旅を発信するYouTubeチャンネル「Miyo channel」を運営

【所属】

沖縄県社会保険労務士会、日本トランスパーソナル学会、メンタルウエルネス協会、日本産業カウンセラー協会、プロセスワーク研究会、教育カウンセラー協会、沖縄解決志向アプローチ研究会

【資格等】

国家資格：社会保険労務士

民間資格：シニア産業カウンセラー（日本産業カウンセラー協会）、認定ハラスメント防止コンサルタント（21世紀職業財団）メンタルウエルネストレーニングインストラクター（MWT協会）キャリアシフトチェンジインストラクター（中央職業能力開発協会）

